

## レポート課題について（社会システムと産業）

2016 年 12 月 9 日 坂田・大島

本講義では試験は行わずレポートを課題とする。この機会に、経済・社会に対する視野を出来るだけ広げてもらうことが目的である。経済・社会を見渡してみると、授業で具体的に取り上げた企業組織、産学連携等以外の分野でも、大小様々な社会システムが出来上がっていることが分かる。そうしたシステムをよく観察してみて欲しい。その上で、次の2項目について論じて欲しい。

### 1. 社会システムの特定と分析

- ・ テーマとする「社会システム」を一つ選択する。授業の範囲は「科学技術・産業」関連であるが、例えば、環境保護、地域社会、教育などそれ以外の分野でもOK。ただし、情報システムは対象外とする。
- ・ 余り大きなシステムや制度を対象としすぎないように注意（例えば、年金・医療・雇用保険から成る社会保障制度）。
- ・ そのシステムを成り立たせている重要な「諸要素（ファクター）」ピックアップする。法律、税制、慣行・文化、支援制度など。
- ・ 次に、システムを構成する「諸要素（ファクター）」間の関係（相互補完、依存関係等）を考えてみる（全部ではなく代表的なものだけでOK）。

### 2. 社会システムの修正提案、それが正当化される理由、考慮すべき補完性

- ・ 当該システムの中で、経済や社会の変化に伴って、修正を迫られている部分はどこか、なぜ修正が必要となっているのか、を特定する。
- ・ システムの修正に関する自分なりの提案を述べる（初歩的なものでOK、結果として、経済・社会活動の効率性向上などにつながるもの）。
- ・ その際、講義を参考とし、当該システム修正の提案について、1) その具体的目的、2) 提案が優れている、例えば、社会的コスト最小、合理的、制度運用が可能と考える理由、3) 想定される効果等を議論する。また、制度的補完性の観点から注意すべき点がもしあれば記述する。

（注意点）

- ① レポートの長さは、4,000字から5,000字を目途（原則としてワープ

- ロ)。2. の提案に全体の半分以上のウェイトを置くこと。
- ② 授業で扱ったケースと同じものを対象とする場合は、個人で、独自の提案を行うことが必須、引用する場合は必ず出典を明記。他の文献からの長文の引用は不要。
  - ③ 留学生については、英語での提出もOK。留学生が日本語で提出すう場合は、文法は採点の対象とはしない。
  - ④ 提出期限 1/20 授業時間中(その前の授業の回から受け取ります)
  - ⑤ 質問は [isakata@ipr-ctr.t.u-tokyo.ac.jp](mailto:isakata@ipr-ctr.t.u-tokyo.ac.jp) (工学3号館5841-1161) まで

(参考)

研究室HP : <http://ipr-ctr.t.u-tokyo.ac.jp/sklab/index.html>

政策ビジョン研究センターHP : <http://pari.u-tokyo.ac.jp/>